

新しみ

新しみは外になく内にある。物になく心にある。年々歳々相同じ日の光に、きようは初日の新しきがある。きのうも汲んだ井戸の水に、けさ若水の新しきがある。

不断に心の新しみをもって、物の新しきを感じ得るものは幸いである。その目に光りの新しきを見、その耳に音の新しきを聞いて、その世界は常に発刺たる新味に満ちている。ういういしい子供心はすなわちこのもっとも幸いなるものである。

陳り易く滞り易き我らの心を奮い起して、子供と共に常に、心の新しき人でなくてはならぬ。陳りし心ほど子供に遠きものはない。そは別の世界を見るからである。——倉橋惣三「幼稚園雑草」より

新しい年を迎える。子どもの傍にいる者として、右の一文を、改めてかみしめ

る時を持ちたいと思う。

私どもの祖先たちは、時間を、暦という形で区切るちえを身につけていた。すなわち、十二月の月、三六五の日数が経過すると、従来の流れを断ち切り、一から出発し直すことを定めたのである。それは、持続と共に「陳り、滞る」日常を、古い年という形で葬り去り、改めて「かのはじまりの日」に立ち戻って、新しく生きようとする試みであった。時間はすべて消失した、すべてがみすみずしく、いま、生まれ出るのである。

年のめぐりとは、そして、新年とは、物理的な時間にかかわることではなく、人によって「生きられる時間」にかかわる出来事なのである。幼い人たちにとつて、日常の時間もまた、時々刻々、不断に再生されている。従って、新年は、彼らの時間と等質である。「お正月」は、言葉の真の意味で、まさしく「子どもの時」なのである。

(本田和子)

幼児の教育 第七十九巻 第一号

一月号 © 定価二五〇円

昭和五十四年十二月二十五日 印刷
昭和五十五年 一月 一日 発行

112 東京都文京区大塚二ノ一

お茶の水女子大学附属幼稚園内

編集兼 津 守 真
発行人

112 東京都文京区大塚二ノ一

お茶の水女子大学附属幼稚園内

発行所 日本幼稚園協会

108 東京都港区三田五ノ二二ノ一

印刷所 図書印刷株式会社

101 東京都千代田区神田小川町三ノ一

発売所 株式会社 フレーベル館

振替口座東京九一九六四〇番

© 本誌御購読についての御注文は発売所
所フレイベル館にお願いいたします